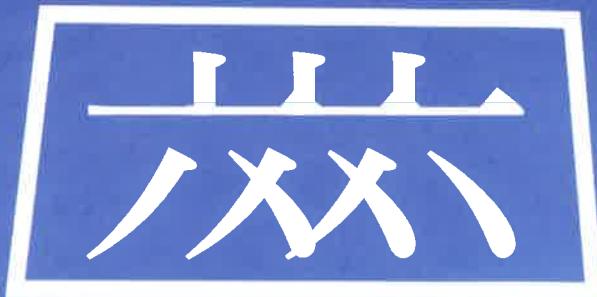


M U T S U R E



ADVENTURE ISLAND

週末の冒険者たちへ

離島のマルチエンディングストーリー



## プロローグ

遠い遠い、遙か久遠の彼方にて、  
六つの火が海より噴き出した

その火は、

六の日を経て燃えさかり  
六の月を経て海を滾らせ  
六の年を経て大地となる

そして幾星霜の時を重ね：

六人の冒險者たちが、  
火を噴く海より出でし  
名も無き島へと降り立つた

未開の島を切り拓き、大冒險の末に、  
六人は島の「秘宝」との邂逅を果たす  
六人は話し合い、その「秘宝」を守り、  
島で生きていくことを決めた  
その六人を「原初の六人」とし、  
名も無き島は発展していくのだつた

「六連島」と呼ばれるようになつて幾星霜：

時は流れ、超少子高齢化時代  
かつての栄華も今は昔

伝説も廃れ、今となつては  
そんな話もあつたような、なかつたような：

だが確かに、それは存在し、  
再び世界にその姿を現す日を待つてゐる

【うにの石碑】 【六連島灯台】  
【雲母玄武岩】 【音次郎遺跡】  
【双星の山羊】 【大華千本槍】  
此等をひとつに結ぶ時、  
「六連島」の眞の姿が明らかとなり  
扉は開かれるだろう

週末の冒險者たちへ告ぐ

「時は来た、冒險の時が。」

憧憬の洞窟

六連島灯台

うにの火は、決して消えない。

## KEY SPOT.01 秘宝への鍵

石碑の傍らで荒々しく尖るアガベは、うにの棘を模したと屡々誤解されるがうにとは全くの無関係であり、誰が何の目的で植えたのかも解き明かされていない。

堂々と【うに】の二文字が刻まれた石碑の存在感は、見る者すべての心に突き刺さる。

発見難易度 | ★★☆☆☆

推奨ハッシュタグ | #うにの石碑 #週末の冒険者 #アガベは刺さると痛い

## うにの石碑

SEA URCHIN MONUMENT

下関の名産品として全国的にも有名なうにの瓶詰めの加工技術は、六連島が発祥の地である。

江戸時代には藩主献上用として目持ちのする塩漬けが考案され、後に焼酎漬けに改良された。

ところがある日、島を訪れた外国人水先案内人が西教寺の住職と歓談を講じていたとき、杯に注ごうとしていた強い洋酒を誤ってうにの入った小鉢にこぼしてしまった。

住職はそのままうにを口に運び、これが意外に美味であったため、島の城主久七にこの話をして試作させ、城主久七はさらに研究を重ねて独自のアルコール漬けうにの加工法を生み出した。



一世紀前より点る、導きの灯。

## 六連島灯台

MUTSURE ISLAND LIGHTHOUSE

日米和親条約で決まった兵庫開港（現在の神戸港）に備えて、慶應3年（1867）4月の大坂条約に基づき建設された5つの灯台の一つとして、英国人技師R・H・プラントンが率いるお雇い外国人により、明治4年11月21日に初点灯された。

平成7年6月27日には、日本で最も早く建造された洋式灯台の一つであることから、市指定文化財に登録された。



### KEY SPOT. 02 秘室への鍵

最古の灯が放つ光は希望とされ、かつて人々の希望の光として存在した。今はもう入ることのできない灯台内部には、原初の六人にまつわる何かが隠されているとか、いないとか… その真実は灯台守の一族と共に此の地を離れて久しく、明らかになることはないだろう。

発見難易度 | ★☆☆☆☆

推奨ハッシュタグ | #六連島灯台 #週末の冒険者 #日本遺産

突き出してきた、大地の鼓動。

# 雲母玄武岩

MICA BASALT

島の中央の小高い丘には、世界で3ヶ所しかないとされる「雲母玄武岩」がある。

雲母玄武岩は火山活動により噴出した高熱の玄武岩が、海水で冷やされることにより無数の小さな穴ができる、その内側に4mmほどの光を放つ黒雲母と角閃石の結晶が生じた大変珍しいもので、明治の初め頃に発見された。

日本では“六連島だけ”的ものであり、昭和9年1月22日に国の天然記念物に指定された。



## KEY SPOT. 03 秘宝への鍵

燃えさかる火の日に炎を纏いて海より突き出し、原初の六人曰く「島の淵源」と伝えられ、輝きを放つ岩として人々から崇められていたが、永きに渡り風雨に晒されたため、今はもう輝きを失ってしまった。

無数に空いた小さな穴のどこかに、秘宝への道標となる結晶が存在するとされているが、その真意は定かではない。

発見難易度 | ★★☆☆☆

推奨ハッシュタグ | #雲母玄武岩 #週末の冒険者 #ただの岩だと思うなよ

太古の遺物が眠る、島の聖域。

## 音次郎遺跡

○

## KEY SPOT. 04 秘宝への鍵

音次郎遺跡への道は、沈黙の森の浸食により閉ざされ、海からしか立ち入ることができない。

二つの輪を持つ移動装置で旅をする冒険者が沈黙の森を抜けたとか、抜けないとか…その冒険者が関係しているかは定かではないが、島の者と外部の者で沈黙の森を切り拓いたという噂もある。

発見難易度 | ★★★★☆

推奨ハッシュタグ | #音次郎遺跡 #週末の冒険者 #盗掘は犯罪です

## 音次郎遺跡

OTOJIRO REMAINS

島の南西部（音次郎）に発達した砂嘴から島すそにかけて広がる縄文、弥生、古墳時代の遺跡で、昭和30年に発見された。

発掘された遺物には、土器類や石器、骨格器などがあり、そのうち製塙用の丸底円筒形の土器は六連式土器と呼ばれて久しい。

音次郎遺跡では土器が露出し、簡単に引き抜くことができるが絶対に引き抜いてはいけない「ダメ、絶対！」だ。

何故ならば、法律上その行為は盗掘になってしまうからだ。

# 六連島の地に立つ、 守護聖獸。

## KEY SPOT. 05 秘宝への鍵

六連島の守護聖獸として、島を守護する双星の山羊。

白のダイフクは主に防御、回復を主（自身の回復はできない）とし、黒のアンコは攻撃を主（主にダイフクを攻撃）としている。

白と黒の双星の試練を乗り越えた時、原初の六人が残した言葉を聞くことができると言われている。

発見難易度 | ★★★☆☆

推奨ハッシュタグ | #双星の山羊 #週末の冒険者 #ダイフクとアンコ

### 双星の山羊

TWIN GOAT

六連島の雑草を食べるという使命を帯びて、2頭の山羊が島にやってきて幾年…思っていたほど草は食べないものの、持ち前の愛らしさから【六連島のマスコット】として島民たちから愛されている。

2頭の名前はダイフク（白山羊）とアンコ（黒山羊）好物は六連島のガーベラの花（茎は食べない）

人懐っこく、とてもかわいい、もし遭遇することがあればその姿を写真におさめてみてはどうだろうか



生命力あふれる、大輪の花々。

## KEY SPOT. 06 秘宝への鍵

かつて原初の六人と親交を深めた花の騎士が、友情の証として大地への祝福を施したという眉唾の伝承が存在する。

花の騎士の祝福が秘宝への鍵に関連しているという説も度々浮上するが、学者たちはその説を否定する。

六連島のガーベラが美しいということだけは、紛れもない事実である。

発見難易度 | ★★★☆☆

推奨ハッシュタグ | #六連のガーベラ #週末の冒険者 #花の島

## 大華千本槍

FLOWER CULTIVATION

肥沃な大地と温暖な気候に恵まれ、下関市や北九州市といった都市部に近いことから、キャベツなど露地栽培の出荷がおこなわれていた。

昭和50年代後半からはより付加価値の高いカーネーションやキクなど花卉栽培への取り組みが始まった。

現在では大型鉄骨ハウスや花卉等運搬船の導入も進み、「花の島・六連島」として定着している。

# 週末の冒険 第一章 沈黙の森

なんかみへ関六連島の6つの音の森、つまり沈黙の森であります。音の森は、音を遮るための木造の構造物で、音を吸収する効果があります。

週末の冒険 第一章  
沈黙の森

そこまで正しつはい直った歯い道。が、ほほは立そぼたれ鳥民がすばど沈黙でりに拓い森は冒険たと言つは厳しき。



## SECRET SPOT. 01

はじまりと終わり、すべてのことにはじまりと終わりがある。

この海岸から海へ出れば、必ず帰ってくることができると太古の長老が言ったとか、言ってないとか…

伝承が真か否かは別にして、忘却の海岸には様々な生物が漂着する。

見たことのない生物に遭遇することもあるかもしれない。

発見難易度 | ★★★★☆

推薦ハッシュタグ | #忘却の海岸 #週末の冒険者 #カブトガニにはビビった



## 忘却の海岸

BEACH OF OBLIVION

人の出入りが途絶え数十年…忘れ去られし手付かずの海岸は幸か不幸か、その美しさを保ち続けていた。

誰にも干渉されることのないこの美しい海岸を、冒険者たちは【忘却の海岸】と呼ぶことにした。

## SECRET SPOT. 02

月が満ちる時、憧憬の洞窟に射し込む月の光を浴びれば、願いが叶うという伝承あり…

原初の六人は満月の夜になると、島の繁栄を願い憧憬の洞窟に籠ったと言わ  
れている。

人々の願いと共に、憧憬の洞窟は幾つもの夜を数える。

発見難易度 ★★★★☆

推奨ハッシュタグ #憧憬の洞窟 #週末の冒険者 #満潮時は気を付ける

### 憧憬の洞窟 THE LONGING CAVE

戦時に防空壕として使用されていた洞窟。

内部は外海へと繋がっていて、冒険心を十二分に満たしてくれるが、満潮時  
には濡れる覚悟がなければ入ることはできない。

少年たちの憧れ、かつての少年である冒険者たちはこの洞窟を【憧憬の洞窟】  
と呼ぶことにした。

これには目を疑つた：と、同時に高揚する。  
だから冒険はやめられない。人工的に空けられている。

週末の冒険者たちは、忘却の海岸を探索する。  
美しい海岸を進んだ先で遭遇したのは：

# 洞窟？！

週末の冒険（第三章）

週末の冒険【第二章】

「沈黙の森」を抜けて「音次郎遺跡」「忘却の海岸」「憧憬の洞窟」へと辿り着いた週末の冒険者たちは、海岸へと流れ着いたゴミが「忘却の海岸」の美しさを損ねていると考え、島民たちへ話したところ、難なく理解を得られた。そしてクリーン作戦は開始されることがとなつた。



異国から流れ着いた見たことのない容器や、再利用できると評判の容器が読んで字の如く「無数とはこういうことか」と冒険者たちの心を削いでいく。でも、それでもと週末の冒険者たちは拾い続ける。拾つても拾つても減らないのだ。



「忘却の海岸」の四分の一程度のゴミを回収したころ、回収した袋の数は100を数えるほどとなつた。その袋をどうやつて持つて帰るか、疲労とあまりの数に誰もが諦めかけていたその時！ エンジン音を響かせ、颯爽と海を駆ける2隻の船が接岸してきた。島民たちである。島民たちが、ゴミを回収に来てくれたのだ。週末の冒険者たちが勝手にはじめたことなのにどうして？ 島民たちは嫌な顔一つせず、当たり前のようゴミを船に積み込んでいく。原初の六人の末裔である彼らは、島の全てを自分事化している。島民たちの心意気に心打たれながらゴミを降ろし、話に花を咲かせた。月並みかもしれないが、みんなで飲むジユースは普段よりも美味しいと感じているはずなのに、島民との交流が楽しくて仕方がなかつた。







運賃（片道）大人370円／子供190円

※子供は6才以上12才未満です。

A期間（4便/日）

1/5~3/19 3/22~8/3 8/17~12/26

竹崎発	六連島発
6:25	7:00
10:00	12:30
16:40	17:10
18:00	18:30

B期間（5便/日）

1/2~1/4 3/20~3/21 8/4~8/16 12/27~12/31

竹崎発	六連島発
6:25	7:00
10:00	12:30
14:30	15:00
16:40	17:10
18:00	18:30

C期間（2便/日）

1/1（祝日）

竹崎発	六連島発
9:00	9:40
16:00	16:40

※气象等により変更する場合があります。詳しくは、渡航事務所（083-261-1010）までお問い合わせください。

※2020.3.31時点の情报です。

下関駅から20分、  
宝物を探しに行こう。

お問い合わせ：下関市企画課 ☎083-231-1911